

太陽光発電設備の開発と今後について

坪井 仲治（みどり21）



再生可能エネルギーの普及を加速させる目的として、再生可能エネルギー固定買い取り制度が始まり、菊川市でもメガソーラー発電所と呼ばれる千キロワット以上の大規模な太陽光発電設備の運転が開始されている。

Q 「菊川市太陽光発電設備の適正導入に向けたガイドライン」が策定されているが、このガイドラインの実効性と条例制定の必要性は。

A ガイドラインでは、地元の理解を得て、地域との調和が図られた太陽光発電事業を適切に実施すること、関係法令の遵守を指導しており、関係法令については所管する窓口と協議し、必要な手続を取るよう指導しているので実効性は担保できている。条例化の必要性は、防災、景観、環境の観点も含めて、地域との調和が図られた太陽光発電事業を適切に実施される必要があると考えられている。条例化する必要があると考えると、脱炭素

社会の実現に向けて実施される国及び県の施策や、令和4年度に見直しを予定している菊川市地球温暖化防止実行計画を踏まえてのものとなるようにする。

Q 太陽光発電設備で火災が発生した場合の対応は。

A 消火活動のリスク回避については、太陽光発電設備特有の対応を行う。特に、消火活動中の感電に対しては注意が必要で、放水の方法・消防隊員の装備に留意している。

他に「避難情報の確実な伝達と避難行動について」質問しました。



徐々に回復した茶価と今後の課題

渡辺 修（みどり21）



今年徐々に回復した茶の単価と今後の課題について質問した。

Q 本年一番茶二番茶ともに昨年に比べて高値だった要因をどのように考えるか。

A 今年は茶葉が良質であったことに加え、昨年、国の補助金を活用した茶販売促進緊急対策事業に取り組んだ結果、茶商の在庫解消が進み、相場回復につながった。また、巣籠もり需要の増加により、1世帯当たりのリーフ茶の消費量が増加したことも高値に転じた要因と考えられる。

Q 規模拡大を図る茶農家は、コンテナ乗用茶摘機や乗用防除機を効率的茶園耕作に必要としているが、資金的に苦しくなかなか手が出せない状況であるため購入補助やリースの補助制度を求めている。また、他市で取り組んでいる補助率が50%と大変魅力的な内容の産地パワーアップ事業は、認定されるまでのハードルが大変高いようだが、菊川市の茶農家が活用でき

る可能性はあるか。また、ほかに有効な補助制度はあるか。

A パワーアップ事業は国の補助制度であるが、茶農家個人など小さな事業所では採択要件を満たすことが難しい。市では、作業効率を上げることを目的とした茶生産者で組織する団体などへ乗用型摘採機の購入にかかった経費の一部を補助する、茶業組織経営体育成等機械化推進事業補助金がある。

他に「所有者不明土地の解消に向けて、本年4月関連法案、改正不動産登記法、改正民法、相続土地国庫帰属法（新法）について」質問しました。



摘採作業中